

地盤工学会関東支部
歴史遺産に関する今後の地盤工学研究の方向性検討委員会

平成 27 年度第 1 回委員会 議事録

出席者：正垣委員長、藤井幹事、岩崎委員、内田委員、太田委員、小口委員、小野日出男委員、金田委員、菊地委員、
末岡委員、野口委員、渡邊委員

欠席者：小野諭委員、昌子委員

配付資料：

資料-1：議事次第

資料-2：設立趣意書

資料-3：採択の経緯について

資料-4：横須賀講演会（8/8）のチラシと配付資料（PPT）、3年前のアンケート例

参考資料-1：「明治日本の産業革命遺産九州・山口と関連地域」の概要について

参考資料-2：第12回地盤工学会関東支部発表会でのディスカッションセッションについて

委員会の進行は次の順番で行われた。

1. 委員長挨拶と委員の自己紹介
2. 委員長より設立趣意書（資料-2）と、採択の経緯（資料-3）を説明
特に予算が7万円弱であることを伝えた。
 - ・岩崎委員より、国際地盤工学会第15回アジア地域会議（本年11月、九州）での著者資格について、共著者も地盤工学会国際会員の必要があると伝えられた。国際委員会によると、規定に書かれているらしい。遺産関係は特にそうであるが、他領域の知識、他学会とのコラボレーションが必要である。このような点に留意して欲しい。また他分野との交流の際には、用語の使い方にも留意して欲しいと意見が出された。
3. 審議事項：横須賀講演会（8/8）の配付資料（PPT）について（資料-4）
 - 3-1 主催者代表挨拶、基調講演について説明がなされた（正垣委員長）
 - 3-2 研究報告の横須賀ドックについて説明がなされた（渡辺委員）
 - 3-3 研究報告の第3海堡について説明がなされた（正垣委員長）
 - 3-4 研究報告の貝山地下壕について、配付資料が紹介された
 - ・写真測定の精度と有効桁数について指摘があった。
 - ・粒径加積曲線が一般人には難しいと指摘があった。身長や体重を例示した説明や、わかりやすい図の表現も考慮することにする。
 - ・歴史遺産、土木遺産、地盤工学的遺産、近代化遺産、軍事遺産などの定義について議論がなされた。文化庁、国土交通省、経済産業省などの定義があり、歴史的な見方や技実的視点など様々な見方がある。代表挨拶の際にこれを説明する。また技術遺産としての価値も伝えてみたい。
 - 3-5 3年前のアンケートの確認、横須賀市のひな形があり、それを基に作り替えた
 - ・表面はこの様式のまま、裏面は不要なQ-6～8を削除する。またご質問に記載の場合は、連絡先のご記入も願います。アンケート等の問い合わせ先を地盤工学会とするか横須賀市とするか、横須賀市に問い

合わせが必要である。

4. 審議事項：委員会の活動方針と内容

4-1 藤井幹事より参考資料－1の説明がなされた

特に三重津海軍所跡・三菱長崎造船所第三船渠・端島炭鉱などが、横須賀ドックや海堡と比較できる。

- ・技術的価値が同様に高いと考えられる横須賀や横浜の遺産がノミネートされなかったことについて、文化庁の管轄でないこと、軍事関係の構造物が多いため近隣諸国に気を遣ったこと、などの情報を確認した。
- ・地盤的な価値だけではなく、歴史学や軍事防衛も含めた学際的な見方が重要である。しかしながら実際に研究を実行しようとする意外に難しい。原因としては、学際的で取り組み難いこと、この分野に確保されている予算が少なく、企業人が参加・継続するのは難しいことなどが考えられる。最終的には対象遺産が観光資源になれば該当地域にとっても有益であるが、現状ではそこまで継続するのも難しい。
- ・次項のディスカッションセッションの計画も含め、継続的に議論していくことを確認した。

5. 審議事項：第12回地盤工学会関東支部発表会（10/9）でのディスカッションセッションについて

地盤工学会関東支部の実行委員会より、上記ディスカッションセッション運営の依頼があった。

- ・前半の60分間で発表を行い、後半30分間はそれを受けたパネルディスカッションを行う案が出た。
- ・国際的な視点で岩崎委員か渡辺委員、第二海堡に関して野口委員にご発表頂きたい。
- ・上記の案を基に、正垣委員長を中心にスタイル案をつくり、書面審議を経て確定することになった。

6. 今後の予定

- ・ATC-19とのコラボレーションを是非行いたいとの確認がされた。また現在のATC-19の活動に関して、各個人が扱っている遺跡について、価値の見極めを理解していこうと努力していることが岩崎委員より紹介された（英語で表現すれば、The Characteristic of Authenticity）。
- ・また岩国の錦帯橋の修復保存が話題に上がった。
- ・予算の関係で、今年度の委員会はあと1～2回開催予定である。また委員会の準備や講演会のため、委員の交通費に予算を一部利用予定である。
- ・次回委員会は、第12回地盤工学会関東支部発表会の準備とあわせながら、後日検討したい。

以上